

田七之助三橋傳八郎と申仁へ、全御家來に候哉、分兼候に付承合候處同日右兩人場所へ被相越、死骸見分候處、同家足輕の山田金兵衛と申者に相違無之旨被申聞候、右六助儀は自身番へ留置、町法の通取計候様申聞腰物等相渡候に付、其儘預り置、此段御訴申上候、

〔嘉永明治年間録六〕安政四年十月九日、越後新發田藩久米幸太郎父仇ヲ奥州仙臺ニ討ツ、

越後新發田溝口主膳正家士久米幸太郎、奥州仙臺祝田濱に於て父の敵瀧澤休右衛門を討つ、

○按ズルニ文化十四年、久米幸太郎ノ父彌五兵衛ノ殺サレシヨリ、此ニ至ル四十二年ヲ經タ

〔嘉永明治年間録十三〕元治元年正月廿四日、中仙道大宮驛ニ於テ宮本某父ノ讐ヲ復ス、

巷説浪人川西祐之助と云もの、○中總願寺へ來り隠れ居しが、宮本某が倅兼太郎と云者、當子七

歳、親の敵と云て、右寺院近邊附規ひし故、院主も圍ひ置難く、依て院主同道にて夜中忍び出、江戸

表へ參らんとする大宮宿地内において、宮本兼太郎と出會親の敵と呼懸く、尤も兼太郎には助

太刀四人程有し由、○下

〔孝義錄五十〕常陸國

親之敵討 本戸殿領分 茨城郡大橋村

上野國

親之敵討 松平大和守領分 勢多郡二之宮村

下野國

親之敵討 大田原飛驒守領分 那須郡矢坪村

陸奥國

親之敵討 南部慶次郎領分 岩手郡栗石村

百姓

茂助 三十六歳

明和五年 褒美

百姓

辰之助 二十三歳

寶曆十年 褒美

百姓

與右衛門 三十三歳

寛政二年 褒美

百姓

上野長之助 二十五歳

元文五年 褒美